

YAMAHA
ELECTONE
CLASSIC
F-400

取扱説明書

YAMAHA

はじめに

このたびはヤマハエレクトーンクラシックF-400をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

F-400は、ヤマハの長年にわたる楽器づくりのノウハウと、最新の電子テクノロジーを結集して完成させたフルスケールモデルの電子オルガンです。

より一層向上したAWM(Advanced Wave Memory)音源による自然でリアルなサウンドを駆使して、多彩なパイプオルガンの世界がお楽しみいただけます。なお、十分にエレクトーンクラシックを使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は保証書とともに大切に保管して、分からないことや不都合が生じた場合に繰り返しご覧下さい。

目次

各部の名称.....	1
ペダル鍵盤の取り付け方.....	2
運搬/移動について.....	2
キーボードアンプの接続について.....	3
リアパネルの出力端子.....	3
キーボードアンプの接続例.....	3
1 演奏までの準備.....	4
2 音色ストップ.....	5
3 効果ストップ.....	7
4 ホール効果(リバーブ).....	8
5 便利なコンビネーション.....	9
6 その他.....	12
故障だとお考えになる前に.....	13
MIDIについて.....	14
仕様.....	16
ご使用上の注意.....	17
サービスと保証.....	17

ご使用上の注意

必ず、AC100Vのコンセントから電源を。



大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものが有ります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。

電源プラグの扱いに注意。



ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。

オルガン内部には、絶対ふれないで。



オルガンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合はサービスセンターまでご連絡ください。

内部に水が入った場合は。



誤って水などをかけ、オルガンの内部に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上でサービスセンターまでご連絡ください。

電源スイッチを切り忘れないように。



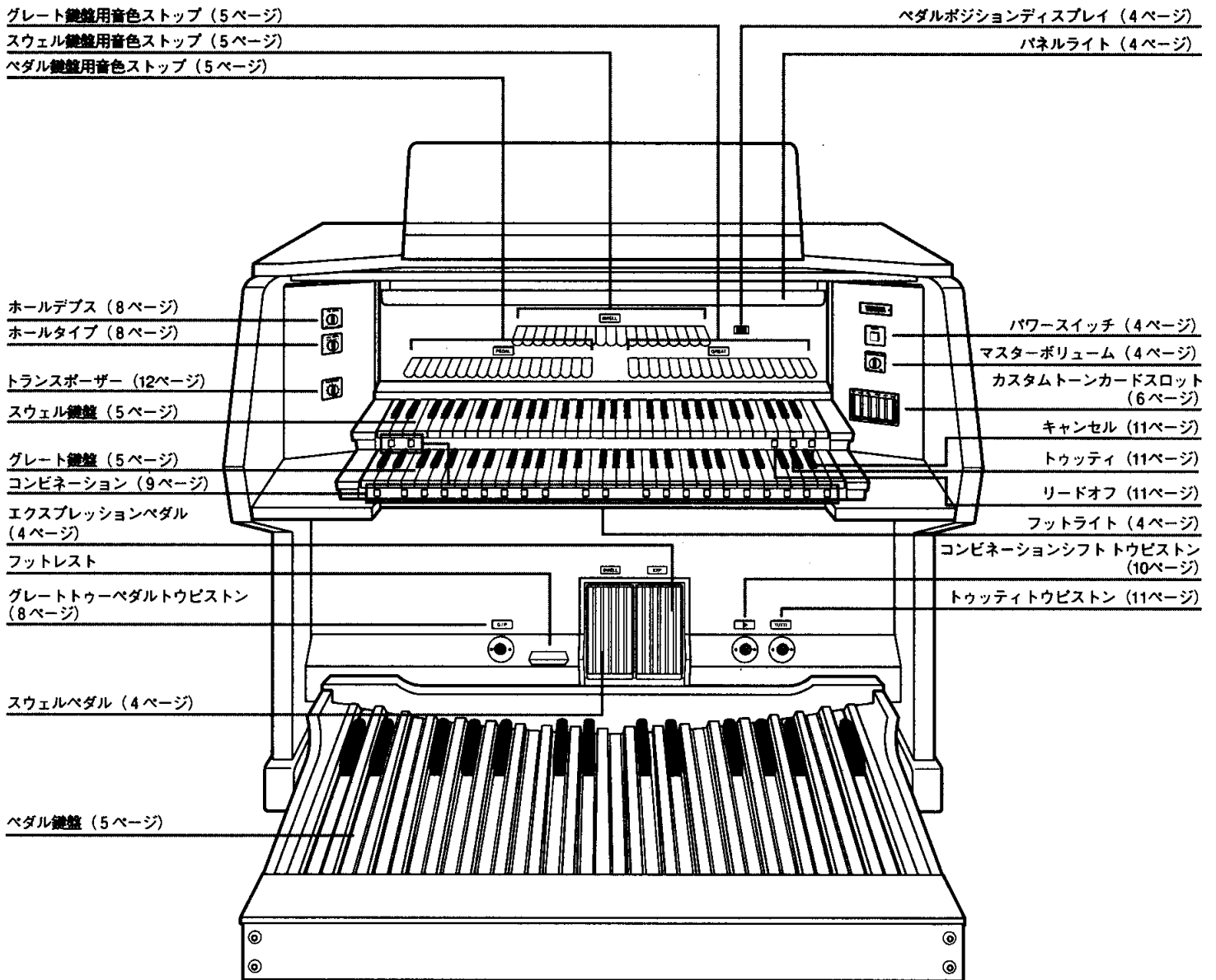
電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ故障の原因になることがありますので、使用後は必ず電源スイッチを切ってください。

音を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

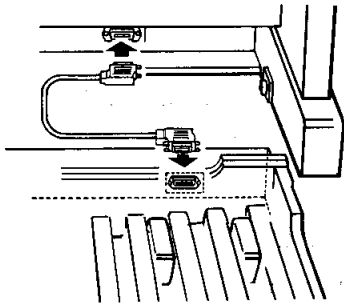
各部の名称



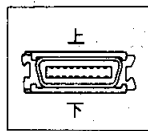
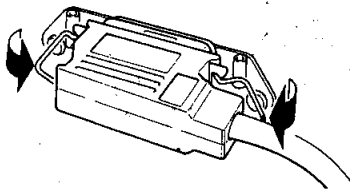
ペダル鍵盤の取り付け方

ペダル鍵盤は、簡単に取り付けたり、取り外したりできます。取り付け、取り外しの場合は、必ず2人で両側から持って、本体を傷つけないようにご注意ください。

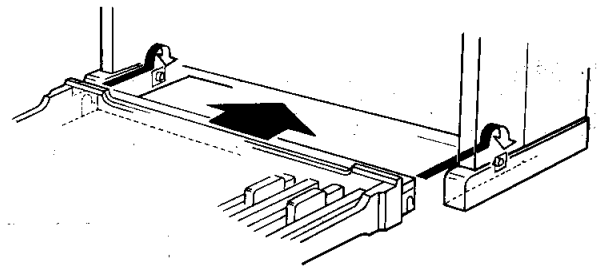
- 1.** 同梱のペダル鍵盤接続ケーブルを使って、F-400本体とペダル鍵盤を接続します。



- 2.** しっかりと接続ケーブルを両側のコネクタに差し込んだ後、それぞれのコネクタ部のロックスプリングでケーブルを固定してください。接続ケーブルは、図に示してある通りに接続してください。逆向きに接続すると、ロックスプリングが効かなくなりますので、ご注意ください。



- 3.** 二人で両側からペダル鍵盤を持ち上げて、F-400のペダル鍵盤受けにペダル鍵盤をのせるようにして取り付けてください。



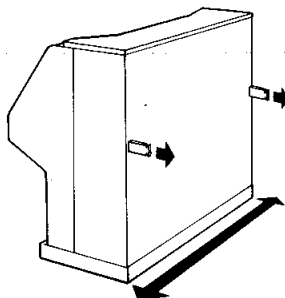
取り外す場合：

ペダル鍵盤を最初少し持ち上げて、それから、手前に引き出してください。

運搬／移動について

F-400を移動する場合には、以下の点にご注意ください。

- 必ずペダル鍵盤を取り外してから、移動してください。
- 電源コードはコンセントから抜き、他の機器との接続コードは取り外し、F-400の下に巻き込まないようにしてください。
- F-400背面の両側に移動用の取っ手が付いていますので、引き出してお使いください。
- F-400底面に移動用のキャスターが付いています。キャスターは横方向に回転するようになっています。



キーボードアンプの接続について

F-400で音を出すためには、キーボードアンプ(パワーアンプ/スピーカーシステム)が必要です。ヘッドフォンで使用する時以外は、ヤマハキーボードアンプKA-75などのアンプ/スピーカーを接続してください。

リアパネルの出力端子

F-400本体背面下部にキーボードアンプ接続用の出力端子があります。

① REMOTE(リモート; DIN5ピン)

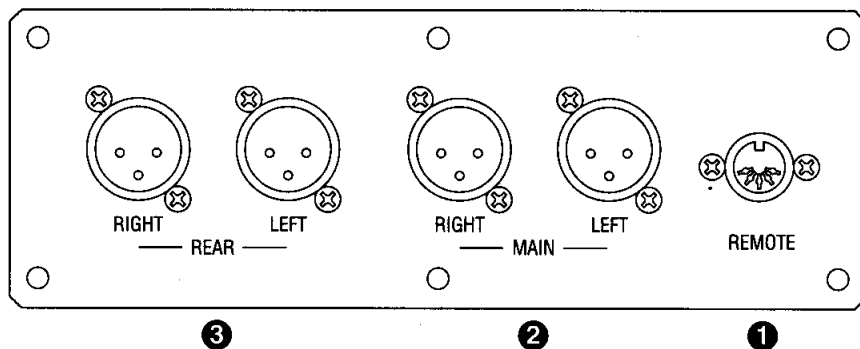
F-400のパワー(電源)スイッチで、キーボードアンプの電源も連動させてオン/オフしたい場合に使用します。MIDIケーブルを使用します。

② MAIN LEFT/RIGHT(メインレフト/ライト; XLR)

メインチャンネルの信号をステレオ出力します。

③ REAR LEFT/RIGHT(リアレフト/ライト; XLR)

リアチャンネルの信号をステレオ出力します。



キーボードアンプの接続例

接続にはヤマハのキーボードアンプKA-75をお薦めします。

キーボードアンプを2台接続する場合：

XLR(キャノン)ケーブルを使って、図1のように接続してください。

- キーボードアンプをF-400のパワースイッチでオン/オフする場合：
MIDIケーブルを使って図1の破線のように接続してください。

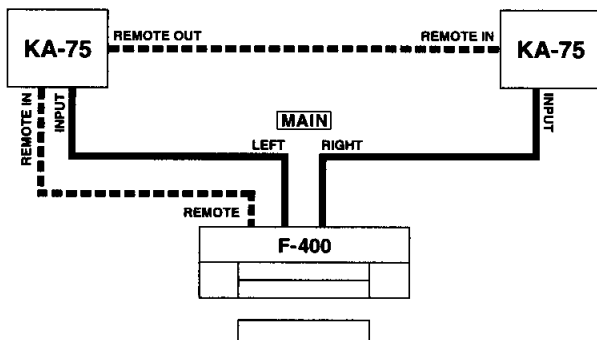


図1

キーボードアンプを4台接続する場合：

XLR(キャノン)ケーブルを使って、図2のように接続してください。リア用のキーボードアンプは、できるかぎり高い位置に設置してください。(リア=キーボードアンプ品番KA-30)

- キーボードアンプをF-400のパワースイッチでオン/オフする場合：
MIDIケーブルを使って図2の破線のように接続してください。

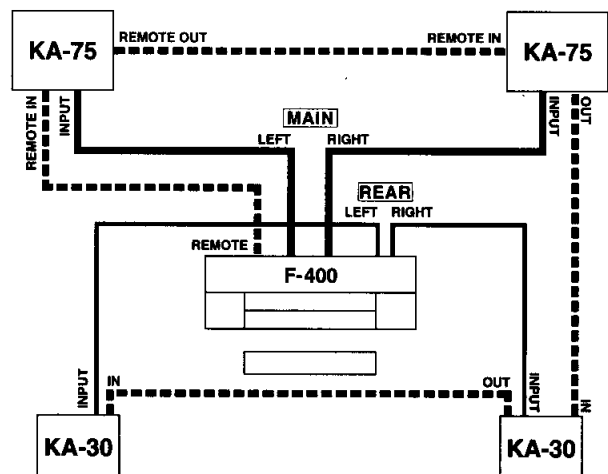
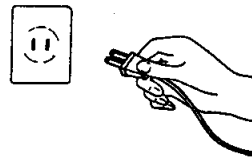


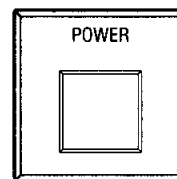
図2

1 演奏までの準備

1. 電源プラグは必ずAC100Vのコンセントに差し込みます。

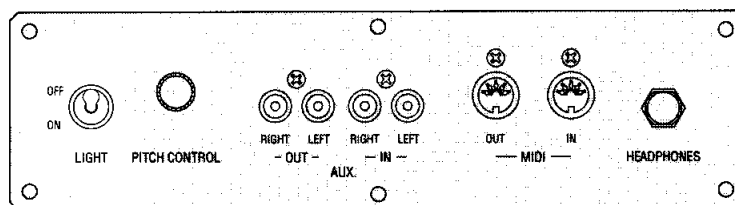


2. F-400のPOWER(パワー)スイッチを押してオンにします。
パワースイッチをオンにすると、フットライトが点灯します。

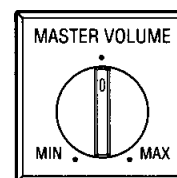


パネルの照明をつけるには：

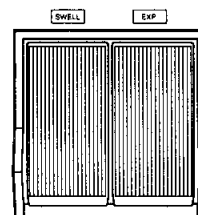
鍵盤下部にあるLIGHT(ライトスイッチ)をオンにします。



3. MASTER VOLUME(マスターボリューム)を設定します。
マスターボリュームでは全体の音量を調節します。



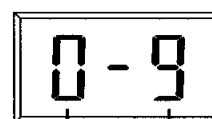
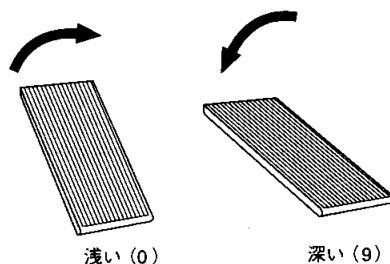
4. エクスプレッションペダルで、全体の音量を調節します。
また、エクスプレッションペダルの左側にあるスウェルペダルでは、スウェル鍵盤だけの音量をコントロールすることができます。



ペダル ポジション ディスプレイについて：

エクスプレッションペダルとスウェルペダルは、現在踏み込まれたペダルの深さがパネル右のディスプレイに表示されます。

ペダルとディスプレイの関係



スウェルペダル(左) エクスプレッションペダル(右)

2 音色ストップ

SWELL(スウェル)、GREAT(グレート)、PEDAL(ペダル)の各鍵盤には、全部で38音色ストップの多彩な音色があります。音色には、いろいろなフィート(')のものがあります。音色ストップは、鍵盤ごとに自由に組み合わせて使用することができます。

音色ストップは、ペロー式なので、演奏中でもオン/オフが簡単に行えます。

PEDAL

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
PRINZIPAL	SUBBASS	OKTAVE	GEDACKT	SPILL-FLÖTE	CHORAL-BASS	ROHR-FLÖTE	MIXTUR	POSAUNE	TROMPETE	CUSTOM I	CUSTOM II	LOUD/SOFT	SWELL TO PEDAL	SWELL TO PEDAL	GREAT TO PEDAL	GREAT TO PEDAL	GREAT TO PEDAL
16'	16'	8'	8'	8'	4'	4'	4f	16'	8'	I	II		16'	8'	16'	8'	4'

SWELL

19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
BORDUN	HOLZ-PRINZIPAL	FLÖTE	VIOLA DA GAMBA	VOIX CELESTE	SPITZ-PRINZIPAL	ROHR-FLÖTE	NASAT	FLACH-FLÖTE	TERZ	SIF-FLÖTE	SCHARF	DULZIAN	TROMPETE	CLARION	CUSTOM I	CUSTOM II	LOUD/SOFT	TREMULANT
16'	8'	8'	8'	8'	4'	4'	2½'	2'	1½'	1'	3f	16'	8'	4'	I	II	SOFT	

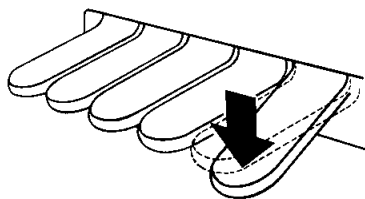
GREAT

38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
BORDUN	PRINZIPAL	GEDACKT	Hohl-FLÖTE	OKTAVE	ROHR-FLÖTE	NASAT	SUPER-OKTAVE	WALD-FLÖTE	QUINTE	SESQUI-ALTERA	MIXTUR	TROMPETE	CUSTOM I	CUSTOM II	LOUD/SOFT	SWELL TO GREAT	SWELL TO GREAT
16'	8'	8'	8'	4'	4'	2½'	2'	2'	1½'	2f	4f	8'	I	II	SOFT	8'	4'

音色ストップの操作

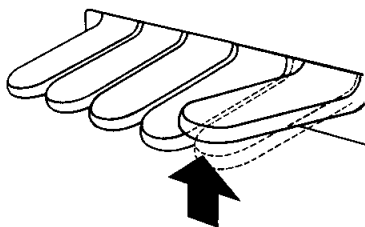
オンにする場合：

ストップの先を軽く押さえます。オンになると、ストップのランプが点灯します。



オフにする場合：

ストップの先を軽く持ち上げます。(または、もう一度、ストップの先を軽く押さえます。) ストップのランプが消え、オフになったことを示します。



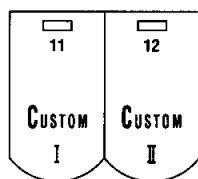
Note: 音色ストップの組み合わせは、「効果ストップ」の設定も含め、コンビネーションボタンにあらかじめ記録しておくことができます。また、記録したコンビネーションは、演奏中にボタンを押すだけで呼び出すことができます。(9ページをご参照ください。)

Note: C (CANCEL; キャンセル) ボタンを押すと、現在オンになっているすべての音色ストップをキャンセル(オフ)することができます。

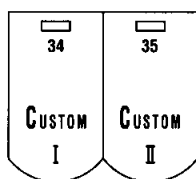
オルガンの音色づくりの基本であるプリンツィパール系を含めた透明感のあるフルー管系の音色を始め、豊かで暖かみのあるリード管系の音色(音色名赤文字表記)、そして華やかなミクスチャー系の音色が内蔵されています。また、このほかに別売のカスタムトーンカードで音色の幅を広げていくこともできます。

音色の幅を広げるカスタムトーン

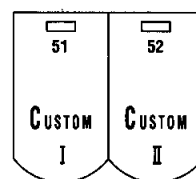
各鍵盤の音色ストップには、内蔵音色のほかに、CUSTOM(カスタム) I、IIというストップがあります。同梱や別売の音色カードを使うことによって、各鍵盤に、それぞれ、2音色ずつ追加することができます。



PEDAL



SWELL

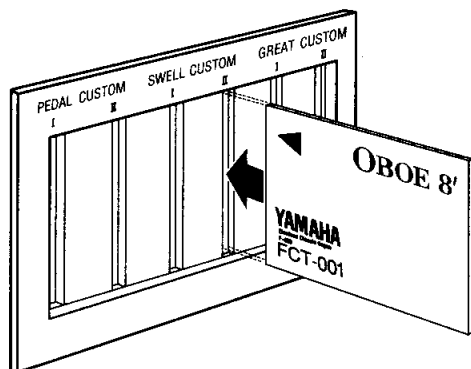


GREAT

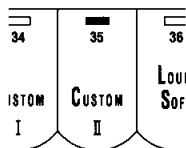
カスタムI、IIを使うには：

1. 電源オフの状態、使いたい鍵盤のカードスロットに、別売のカスタムトーンカードを挿入します。
(例えば、スウェルのカスタムIIの音色ストップを使いたい場合は、カードスロットのSWELL CUSTOM IIにカスタムトーンカードを挿入します。)

Note: カスタムトーンカードはどのスロットでも(どの鍵盤でも)使用できます。



2. カスタムの音色ストップをオンにします。

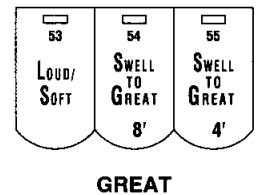
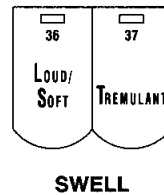
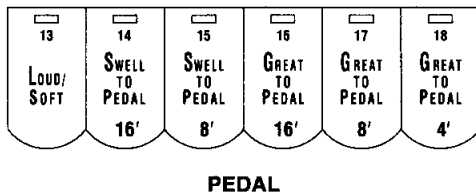


Note: カスタムトーンカードを装着していない場合、カスタムの音色ストップは機能しません。

カスタムトーンカードを挿入したり、取り出す場合は、必ずF-400の電源をオフにしてから行ってください。また、カードの向きを間違えないようにご注意ください。

3 効果ストップ

効果ストップ(茶色)は、音色ストップの右側にあり、鍵盤ごとに音色に変化を加えます。ラウド/ソフトはすべての鍵盤に、トレミュラントはスウェル鍵盤にそれぞれついています。



1. LOUD/ SOFT(ラウド/ソフト)

ある鍵盤の音量を、ほかの鍵盤よりやや大きめに(ラウド)/小さめ(ソフト)にすることができます。

ほかの鍵盤より大きめにする場合：

ラウド/ソフト ストップの先を軽く持ち上げます。

→ストップのランプが赤く点灯し、ラウドに設定されたことを示します。

ほかの鍵盤より小さめにする場合：

ラウド/ソフト ストップの先を軽く押さえます。

→ストップのランプが緑色に点灯し、ソフトに設定されたことを示します。

(このストップは、大きめ[赤色]、標準[消灯]、小さめ[緑色]の3段階になっています。)

2. TREMULANT (トレミュラント)

スウェル鍵盤のトレミュラントをオンにすると、音量が周期的に変化し、音に独特のうねりが加わります。

3. カプラー

ある鍵盤で設定したすべての音色を、ほかの鍵盤でも演奏することができます。1つの鍵盤で2つの鍵盤の音を同時に鳴らすことができますので(カプラー機能)、音に厚みが加わり、音色の組み合わせもより一層多彩になります。

● SWELL TO PEDAL (スウェル トゥーペダル) 16'/8'

このストップをオンにして、ペダル鍵盤を弾くと、ペダルに設定している音色に加えて、スウェル鍵盤に設定している音色が鳴ります。

スウェル トゥー ペダル 16'=1 オクターブ下の音が発音します

スウェル トゥー ペダル 8'=同じオクターブで発音します

● GREAT TO PEDAL (グレートトゥーペダル) 16'/8'/4'

このストップをオンにして、ペダル鍵盤を弾くと、ペダルに設定している音色に加えて、グレート鍵盤に設定している音色が鳴ります。

グレート トゥー ペダル 16'=1 オクターブ下の音が発音します

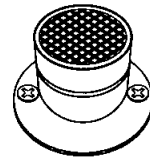
グレート トゥー ペダル 8'=同じオクターブで発音します

グレート トゥー ペダル 4'=1 オクターブ上の音が発音します

G/P(グレート トゥー ペダル) トウピストン

スウェルペダルの左側にあるトウピストンを押すと、グレートトゥーペダル8'のカプラーのストップと同じように、グレート鍵盤の音色をペダルで使用することができます。演奏中でも、手を使わずに、足を使ってカプラーを入れることができます。つまり、この場合、ストップもトウピストンも同じ働きをするわけです。グレートトゥーペダル8'のカプラーストップがオンの時に、トウピストンを押せば、オフになります。

G/P



● SWELL TO GREAT (スウェル トゥー グレート) 8' / 4'

このストップをオンにして、グレート鍵盤を弾くと、グレート鍵盤に設定している音色に加えて、スウェル鍵盤に設定している音色が鳴ります。
スウェル トゥー グレート 8' = 同じオクターブで発音します
スウェル トゥー グレート 4' = 1 オクターブ上の音が発音します

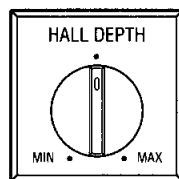
Note: カプラーを使用する時、移す側の鍵盤でラウド/ソフトやトレミュラントの効果がかかっていたら、別の鍵盤に移された音色もその効果がかかった状態になります。

4 ホール効果 (リバーブ)

音色に残響をつけ、立体的で奥行きのある演奏にします。残響の深さを設定できるだけでなく、ホールのタイプを選ぶことができます。

HALL DEPTH (ホール デプス)

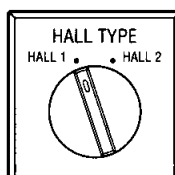
ホール効果(残響)は、MAXで最も深く、MINで最も浅くなります。



HALL TYPE (ホールタイプ)

ホール効果をかけた時に得られる音場の種類を選ぶことができます。F-400の設置場所の規模や演奏曲目に応じて、タイプを選択してください。

- HALL 1 中ホールの音場。
- HALL 2 大ホールの音場。



5 便利なコンビネーション

1. コンビネーション(レジストレーションメモリー)

各鍵盤の音色ストップや効果ストップで設定したレジストレーション(組み合わせ)をあらかじめ設定しておけば、演奏中でも、ボタン一つで呼び出すことができます。

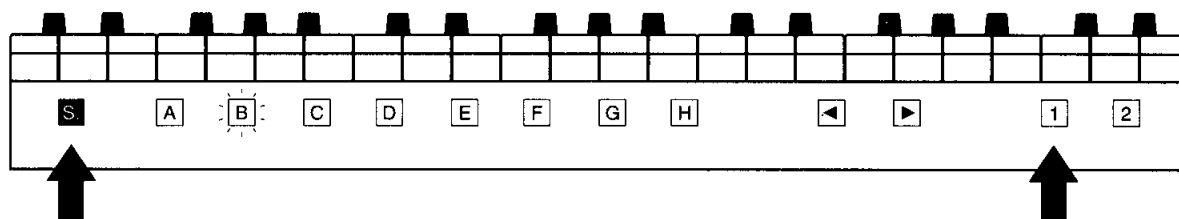
レジストレーションを記録する：

記録できるナンバーは1から10までですが、AからHまでのグループでの組み合わせが可能です。10(1~10)×8(A~H)で、合計80通りのコンビネーションに記録できます。

1. 記録したいレジストレーションを設定します。
2. 記録するコンビネーションボタンの組み合わせを決めます。(この場合、B-1 [グループBのナンバー1] に記録する例を示します。)
3. まず、グループを選択します。コンビネーショングループBボタンを押してください。Bボタンが点滅を始めます。(この時点では、まだレジストレーションは記録されていません。)
4. グレート鍵盤下の左隅にあるS.(SET;セット)ボタンを押しながら、記録したい番号のコンビネーションナンバーボタン(この場合、ナンバー1)を押します。

Note: 電源オン時には、グループボタンのAだけが点灯しています。ナンバーボタンはすべてオフの状態になっています。

Note: グループのA~Hボタンを押してグループボタンが点滅を開始した後、その次の動作をしないで20秒間経過すると、自動的に直前に選択されていたコンビネーションボタンのレジストレーションに戻ります。



5. コンビネーショングループボタンとコンビネーションナンバーボタン(この場合、B-1)が点灯し、レジストレーションが記録されたことを示します。

レジストレーションを呼び出す：

呼び出したいレジストレーションの入ったコンビネーションボタンの組み合わせ(たとえば、Bと1)を押します。これで、鍵盤上にそのコンビネーションボタンのレジストレーションが設定されました。

コンビネーションシフトについて：

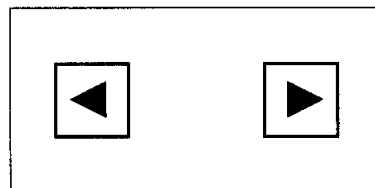
コンビネーションシフト機能を使うと、ボタンを押すだけであらかじめ設定したレジストレーションをナンバー順に連続して呼び出していくことができます。

コンビネーションシフトは、2つのボタンで操作します。

▶ ボタン：押すと1つだけ次のコンビネーションに進みます。

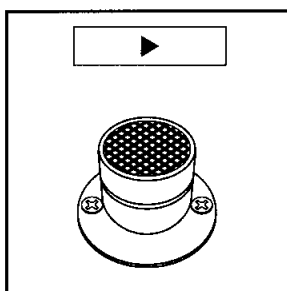
◀ ボタン：押すと1つだけ前のコンビネーションに戻ります。

コンビネーションシフト ボタンは、以下の3ヵ所にあります。



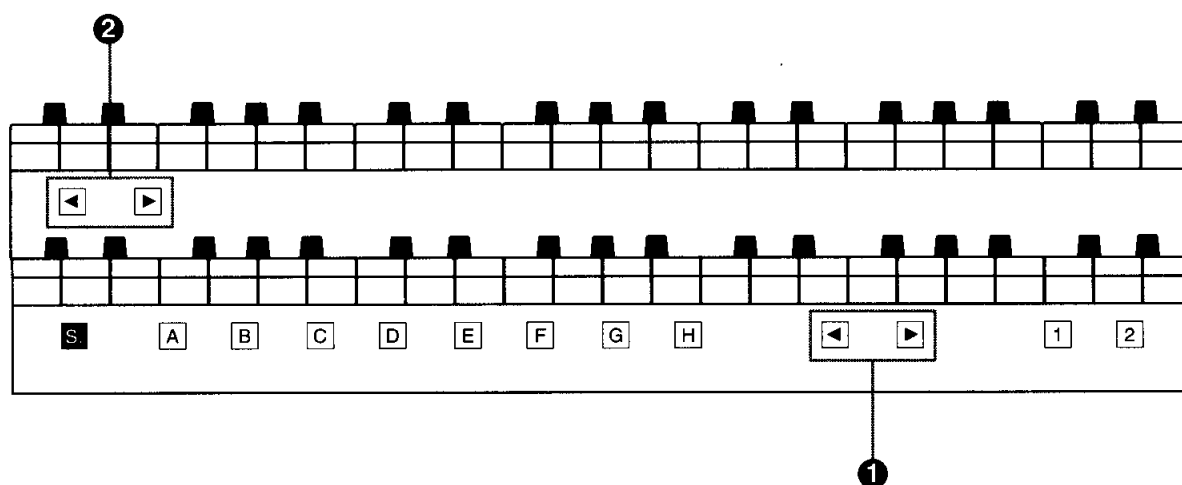
- ① グレート鍵盤下中央 (◀ ▶)
- ② スウェル鍵盤とグレート鍵盤の間の左隅 (◀ ▶)
——— アシスタントの方が使用されると便利です。
- ③ エクスプレッションペダルの右側のトウピストン (▶)
——— トウピストンを押すと次のコンビネーションが選ばれます。

Note: コンビネーションナンバー10が点灯している時に、▶を押すと、ナンバーは次のグループの1に変わります。(たとえば、A-10の時に▶を押すと、B-1に移ります。)



③

Note: コンビネーションに記録したレジストレーションは、本体に内蔵したリチウム電池によってバックアップされています。電池寿命は、約7年間です。電池の交換につきましては、サービスセンターにお申しつけください。



2. トウッティ (TU.; TUTTI)

スウェル鍵盤右下のTU.(トウッティ) ボタンを押すと、どの鍵盤も、カスタムトーンなどの特定の音色ストップを除いてすべての音色ストップがオンになります。

TU.のランプが点灯します。

この場合、トウッティに設定されている音色ストップのランプはすべて点灯します。もう一度押すと、トウッティはキャンセルされ、トウッティが選択される直前の設定に戻ります。

Note: トウッティがオンの時に、いずれかのストップを押すと、TU.のランプは消えます。つまり、変更が加えられたら、トウッティの設定がキャンセルされたことになるわけです。

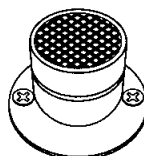
TU.

トウッティトウピストン

エクスプレッションペダルの右側にあるトウピストンを押すと、トウッティのボタンと同じように、トウッティをオンにすることができます。

演奏中でも、手を使わずに、足を使ってトウッティを入れることができます。つまり、この場合、ボタンもトウピストンも同じ働きをするわけです。ボタンがオンの時に、トウピストンを押せば、オフになります。

TUTTI



3. リードオフ(R.O.; REED OFF)

トウッティの左のR.O.(リードオフ) ボタンを押すと、リード管系の音色だけがオフの状態になります。R.O.のランプが点灯します。

もう一度押すと、リードオフはキャンセルされ、リードオフが選択される直前の設定に戻ります。

Note: トウッティがオンの時、リードオフのボタンを押せば、リード管系の音色を消したトウッティになります。

R.O.

4. キャンセル(C.; CANCEL)

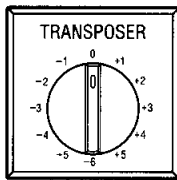
トウッティの右のC.(キャンセル) ボタンを押すと、オンになっているすべての音色ストップのランプが消え、オフになります。レジストレーションを最初から設定する場合は、このボタンを使うと便利です。

C.

6 その他

1. トランスポージャー (TRANSPOSER)

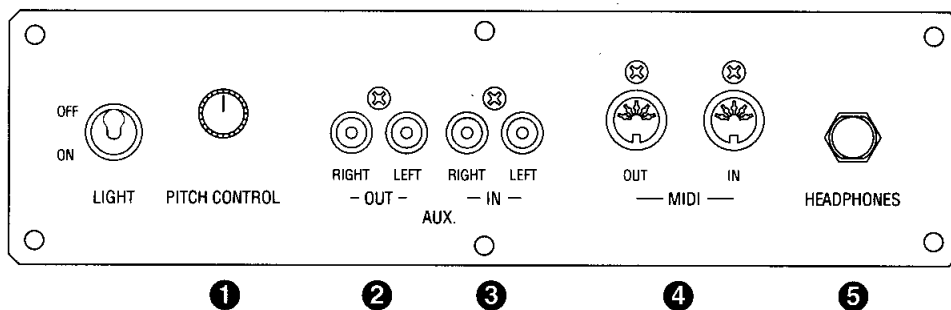
鍵盤左側にあるTRANSPOSER(トランスポージャー)を使うと、半音ずつ移調することができます。レンジ：-6～+5



2. ピッチコントロール (PITCH CONTROL)

鍵盤の下部にあるPITCH CONTROL(ピッチコントロール)つまみ ❶ を回すことで、音程を細かく調整することができます。中央が標準ピッチ(A3=440Hz)です。

レンジ：432Hz～448Hz



3. その他の端子

❷ AUX. OUT L/R (出力端子;RCA)

F-400の音声信号を外部機器にステレオ出力する端子です。キーボードアンプに接続する場合は、リアパネルの出力端子をご使用ください。(3ページをご参照ください。)

❸ AUX. IN L/R (入力端子;RCA)

外部機器からの音声信号をステレオ入力する端子です。外部機器の音声をF-400の音と一緒にキーボードアンプから出力します。

❹ MIDI IN/OUT (MIDI端子)

ほかのMIDI(Musical Instrument Digital Interface)規格の機器とデータのやり取りをしたり、F-400でその外部機器をコントロールする場合に使用します。

MDR-3ミュージックディスクレコーダーを接続して、F-400の演奏を録音したり、再生したりすることができます。(14ページをご参照ください。)

専用のMIDIケーブルが必要です。

❺ HEADPHONES(ヘッドフォン端子)

ヘッドフォンを接続する端子です。リモート機能(REMOTE;3ページをご参照ください。)で外部スピーカーをコントロールしている時にヘッドフォンを接続すると、スピーカーの音は自動的にカットされます。エレクトーン用のステレオヘッドフォンをご使用ください。

故障だとお考えになる前に

以下のような現象は、故障ではありませんので、ご注意ください。

F-400の症状をよく確かめて、理解を深めていただきますようお願いいたします。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリツとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具をON/OFFしたり、電気ドリルや故障したネオンサインなどを使用している場合は、雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントをお使いください。
テレビやラジオ、無線などの電波が入る。	近くに放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの販売店または電音サービスセンターまでご相談ください。
テレビやラジオなどに雑音が入る。	ごく近くにテレビやラジオが置いてあると、雑音が入る場合があります。できるかぎり離してお使いください。
周囲の物が共鳴してびりつく。	F-400の音は持続音であるため、周囲の窓ガラスや戸棚などの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
スピーカーから音が出てこない。	①接続コード・ケーブルの接続を確認してください。 ②接続しているアンプ・スピーカーの電源がONになっているかどうかを確認してください。
音が小さい。	①マスター・ボリューム、エクスプレッションペダルのセット位置を確認してください。 ②接続しているアンプ・スピーカーのボリュームを確認してください。
パネルでセットしているストップとは異なる音が出る。	ペダルまたはグレートで、カプラーのストップがONになっています。カプラーのストップがONになっていると、別の鍵盤で設定しているストップの音が同時に発音します。
カスタムトーンのストップをONにしても音が出ない。	①カスタムトーンのストップは、オプションのカスタムトーンカードを本体のカードスロットに挿入することで発音するようになります。(カスタムトーンカードを挿入する時は、いったん電源をOFFにしてから、挿入してください) ②カスタムトーンカードを挿入する時は、カードの向きを間違えないように注意してください。

MIDIについて

F-400には、MIDIイン／アウト端子が付いています。外部のMIDI対応楽器／機器と接続することにより、F-400の世界を広げることができます。

MDR-3ヤマハミュージックディスクレコーダーを接続することで、演奏を録音／再生することができます。つまり、F-400で演奏した大切なデータをフロッピーディスクに保存したり、また、好きな時にそのデータを使って再生することができるわけです。

送／受信できる主なデータ

鍵盤のオン／オフデータ(ノートオン／オフ)

スウェル鍵盤：1チャンネルで送/受信

グレート鍵盤：2チャンネルで送/受信

ペダル鍵盤：3チャンネルで送/受信

ストップのオン／オフデータ(プログラムチェンジ)

スウェル鍵盤のストップ：1チャンネルで送/受信

グレート鍵盤のストップ：2チャンネルで送/受信

ペダル鍵盤のストップ：3チャンネルで送/受信

スイッチ類の切り換えデータ(プログラムチェンジ)

レジストレーションの切り換え：16チャンネルで送/受信

トゥッティのオン／オフ：16チャンネルで送/受信

リードオフのオン／オフ：16チャンネルで送/受信

ペダル類のデータ(コントロールチェンジ)

エクスプレッションペダルデータ：16チャンネルで送/受信

スウェルペダルデータ：16チャンネルで送/受信

バルクデータ(エクスクルーシブメッセージ)

パネル設定：チャンネルに関係無く送/受信

レジストレーションの記録内容：チャンネルに関係無く送/受信

MIDIレコーダーの再生時に、記録したレジストレーションを受信せず、演奏データだけを取り出すこともできます。

レジストレーションの記録内容を受信しないモードの選択方法：

1. 一旦、電源をオフにします。
2. コンビネーションのSボタンを押しながら、電源を入れ直します。

Note: 電源を再度入れ直すことで、元のモードに戻ります。

MDR-3ミュージックディスクレコーダーの使用について

2本のMIDIケーブルで、F-400とMDR-3を接続します。詳しくはMDR-3の取扱説明書をお読みください。

MDR-3でできること

- 演奏の録音/パート別録音
- 曲のコピー/削除
- 演奏の再生/パート別再生
- レジストレーション(バルクデータ)の記録
- リピート(繰返し)再生
- レジストレーション(バルクデータ)の呼び出し
- 再生テンポの変更

F-400 MIDI インプリメンテーションチャート

Date: 1992. 7. 31

Version: 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16 ×	1, 2, 3, 16 ×	*1
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	36-96, 36-67 *****	36-96, 36-67 36-96, 36-67	*2 *2
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH, v=1-127 ○ 8nH, v=1-127	○ 9nH, v=1-127 ○ 8nH, v=1-127, 9nH, v=0	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	11 16 81	○ ○ ○*3	○ ○ ○*3	エクスプレッションペダル スウェルペダル キャンセル
プログラム チェンジ	設定可能範囲	0-36, 38-39 *3 0-32, 34-37 *3 0-32, 34-37 *3 32-39, 48-57 *3 *****	0-36, 38-39 *3 0-32, 34-37 *3 0-32, 34-37 *3 32-39, 48-57 *3 *****	スウェル グレート ペダル コンビネーション
エクスクルーシブ		○*4	○*5	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× ○*6 ○ ×	
備考		*1 1チャンネル：スウェル, 2チャンネル：グレート, 3チャンネル：ペダル, 4チャンネル：コントロール *2 36-96 (スウェル, グレート), 36-67 (ペダル) *3 電源ON時のモード *4 バルクダンブデータ *5 バルクダンブデータ送信要求, バルクダンブデータ *6 ベーシックチャンネルとコントロールチャンネルで受信		

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード2：オムニ・オン、モノ

モード3：オムニ・オフ、ポリ
モード4：オムニ・オフ、モノ

○：あり
×：なし

仕様

	F-400
鍵盤	グレート: 61鍵 C1~C6 最大同時発音数: 16
	スウェル: 61鍵 C1~C6 最大同時発音数: 16
	ペダル: 32鍵 C1~G3 最大同時発音数: 4 (平行型または扇型)
ストップ	グレート: 音栓13 (ボードン16', プリンツィパール8', ゲダクト8', ホールフローテ8', オクターブ4', ロールフローテ4', ナザート2-2/3', スーパーオクターブ2', バルトフローテ2', クヴィント1-1/3', セスキアルテラ2f, ミクスチャー4f, トランペーテ8')
	カスタム: 音栓2 (カスタム1, カスタム2) 効果1 (ラウド/ソフト)
	スウェル: 音栓15 (ボードン16', ホルツプリンツィパール8', フローテ8', ピオラダガンバ8', ボアセレステ8', スピッツプリンツィパール4', ロールフローテ4', ナザート2-2/3', フラッハフローテ2', テルツ1-3/5', ジフフローテ1', シェルフ3f, ダルツィアン16', トランペーテ8', クラリオン4')
	カスタム: 音栓2 (カスタム1, カスタム2) 効果2 (ラウド/ソフト, トレミュラント)
	ペダル: 音栓10 (プリンツィパール16', ズバス16', オクターブ8', ゲダクト8', シュビルフローテ8', コラルバス4', ロールフローテ4', ミクスチャー4f, ボザウネ16', トランペーテ8')
	カスタム: 音栓2 (カスタム1, カスタム2) 効果1 (ラウド/ソフト)
カスタムトーンカード	オーボエ8', クルムホルン8'
カブラー	グレート: スウェル トゥー グレート8', スウェル トゥー グレート4'
	ペダル: スウェル トゥー ペダル16', スウェル トゥー ペダル8', グレートトゥー ペダル16', グレートトゥー ペダル8', グレートトゥー ペダル4'
コンビネーション	ゼネラル8×10, コンビネーションシフト, トウッティ, リードオフ, キャンセル
トウピストン	グレートトゥー ペダル, コンビネーションシフト, トウッティ
効果	エクスプレッションペダル, スウェルペダル, マスターボリューム, ホール効果, トランスポージャー, ピッチコントロール
入出力端子	MAIN OUT (XLR; L/R), REAR OUT (XLR; L/R), HEADPHONES OUT, AUX IN/OUT (RCA; L/R), MIDI (IN/OUT), REMOTE
その他	パネル照明ライト(スイッチ付き), ペダル照明ライト, ペダルポジションディスプレイ, 譜面板
外装	ホワイトオーク(リアルウッド; ウレタン塗装)
AC入力	定格電圧: 100V, 定格消費電力: 80W, 定格電源周波数: 50/60Hz
寸法	本体: 間口148cm, 奥行114cm(ペダル含む), 高さ128cm 椅子: 間口142cm, 奥行35.5cm, 高さ63.5cm
重量	本体: 156kg ペダル: 47kg(平行型), 48kg(扇型) 椅子: 22kg
オプション	カスタムトーンカード, ホール効果用スピーカー, アンプ, MDR-3 ミュージックディスクレコーダー

ご使用上の注意

設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。

外装や鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れがひどい場合は、水でうすめた台所用中性洗剤にひたした布をよく絞って拭き取り、乾いた布で仕上げてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。

電源コードを大切に

- 本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかけたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは、危険ですからさけてください。

無理な力を加えないでください

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。

- 椅子、ペダル鍵盤などの取り扱いでは、キズをつけないように注意してください。

他の機器との接続について

アンプなどの外部機器と接続する場合は、「キーボードアンプの接続について」(3ページ)を参照のうえ、正しく接続してください。また接続の際はオルガンと外部機器の電源スイッチを切ってから行ってください。

他の電気機器への影響について

この楽器はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤作動の原因になることがあります。他の電気機器から充分はなしてご使用ください。

落雷に対する注意

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

万一異常があったら

使用中に音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくはサービスセンターまでご連絡ください。

サービスと保証

保証

保証期間は、保証書の裏面の記載により、ご購入から満10年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は、いたしません。また、保証は日本国内でのみ有効とします。

保証書

オルガン納入の際、保証書をお渡しますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には、納入調整者が保証書内に必要事項を記入いたしますので記載事項をご確認ください。

保証書は大切にしましょう!

保証書は、弊社がご購入いただきましたお客さまに、ご購入の日から向こう1年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失されますと、保証期間中であっても実費をいただく場合がございます。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように、たいせつに保管していただきますようお願いいたします。また、保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。後々のサービスに際して、サービス依頼店の確認など、便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと、販売店またはヤマハの技術者が直ちに調整・修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした際に今後の製品改良の貴重な資料とするため、技術者が一時お預かりします。お預かりした保証書は、弊社サービスセンターに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申し上げます。
3. 遠方に転居される場合は、事前にお買い上げ楽器店または弊社サービスセンターにご連絡ください。転居先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますとともに、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1年の保証期間が切れますと、サービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、8年となっております。保証期間以後の転居の場合も、保証期間中と同様にご連絡いただきましたら転居後のサービス担当店をご紹介いたします。

サービスの依頼

- ご依頼の前に。

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話での依頼の際、再度、故障かどうかを確認させていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いいたします。

- 故障の様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にオルガンをお弾きになっていらっしゃる方からお話をうかがえば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合は、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜間だけ音が小さい●ある時間だけ雑音がでる●演奏しなくても、スイッチを入れるだけで雑音がでる、などの場合です。
3. オルガンの種類など、サービスご依頼に関する詳細は、保証書をご覧ください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

- これだけはお知らせください。

ご住所・お名前・ご連絡先・ご購入店・お買い上げ年月日・機種名(モデル名)……保証書に記載されています。●症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で昼間ご不在のお客さまや、留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時をお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時のご都合が悪くなった場合には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼なされたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合には、お手数でも下記のサービスセンターまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点(修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 TEL.011-513-5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商協同配送センター3F TEL.022-236-0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL.025-243-4321
東京サービスセンター	〒101 千代田区神田駿河台3-4 竜名館ビル4F TEL.03-3255-2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ柳宮竹工場内 TEL.053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ柳宮名古屋流通センター3F TEL.052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新庄屋1-16 ヤマハ柳千里丘センター内 TEL.06-877-5252
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区元町通2-7-3 ヤマハ柳神戸店内7F TEL.078-321-1195
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ柳高松店内 TEL.0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL.082-874-3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
[本社]カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ柳宮竹工場内 TEL.053-465-1158

ヤマハ株式会社

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
鍵盤推進課 TEL.011(512)6144

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
鍵盤推進課 TEL.022(222)6149

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
鍵盤推進課 TEL.03(3572)3140

関東支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
鍵盤推進課 TEL.03(3572)3120

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店 / 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL.06(252)7541

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
鍵盤推進課 TEL.082(244)3748

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤推進課 TEL.092(472)2152

鍵盤営業本部 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
電子楽器営業部 TEL.03(5568)2931
エレクトーン営業課

*住所および電話番号は変更になる場合があります。
